

## 第10回ヒロシマ賞受賞記念 モナ・ハトゥム展

2017年7月29日(土)～10月15日(日)

世界最初の被爆地である広島市は、世界の恒久平和と人類の繁栄を願う「ヒロシマの心」を美術を通して世界へ訴えることを目的とし、1989年にヒロシマ賞を創設、3年に一度授与してきました。その第10回ヒロシマ賞の受賞者となったモナ・ハトゥムの受賞記念展を開催します。

### これまでの活動とヒロシマのための新作を紹介する国内初個展

1952年にパレスチナ人の両親のもと、レバノンの首都ベイルートに生まれたモナ・ハトゥムは、イギリスに旅行中の1975年、レバノン内戦の勃発により帰国することができなくなります。以来、レバノンそしてイギリスという異境に暮らしてきたパレスチナ人として、二重に追放された自らの境遇に根ざしながら、疎外された人間の苦しみや、政治的な抑圧、ジェンダーの問題など様々な社会的矛盾を、パフォーマンスや映像、そしてインスタレーションや彫刻で表現してきました。

日本で初めての本格的な個展となる本展では、これまでの代表作を紹介するとともに、受賞決定後に広島を訪れた作家が制作した新作を展示します。ヒロシマと向き合いながら生み出された作品とともに、本展は人類の歴史において最も悲惨な出来事の一つであるヒロシマをさらに普遍的な問題として考えるための機会となるでしょう。

### 展覧会

- 【会期】 2017年7月29日(土)～10月15日(日)  
 【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は閉館30分前まで  
 【休館日】 月曜日 ※ただし祝休日に当たる場合は開館し、翌日休館  
 【観覧料】 一般1,030(820)円、大学生720(620)円、  
 高校生・65歳以上510(410)円、中学生以下無料  
 ※( )内は前売りおよび30人以上の団体料金  
 【主催】 広島市現代美術館、朝日新聞社  
 【後援】 広島県、広島市教育委員会、中国放送、広島テレビ、  
 広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、  
 尾道エフエム放送 (すべて予定)

### スケジュール

7月28日(金)

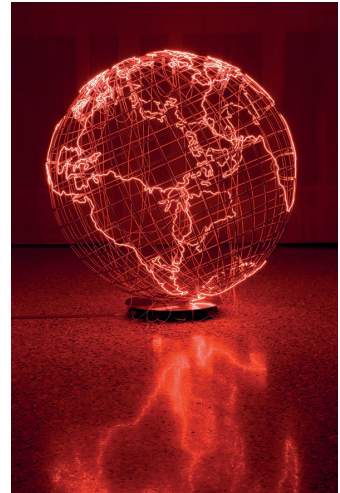
午後/内覧会(プレス対象)、作家記者会見  
 夕方/ヒロシマ賞授賞式、レセプション、内覧会

7月29日(土)

14:00～モナ・ハトゥム講演会

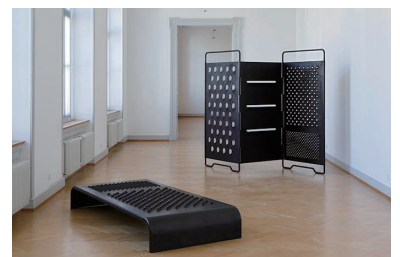
●詳細および参加・取材については以下までお問い合わせください。

広報担当/後藤、鈴木 TEL 082-264-1146 E-mail hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



《Hot Spot III》2009年  
 Photo Agostino Osio  
 Courtesy Fondazione Querini Stampalia  
 Onlus, Venice

■世界の課題である変動する国境や政治的抑圧などの問題を、赤いネオン管で地図を描いた檻のような地球儀によって表現している。



(左手前)《Daybed》2008年  
 (右奥)《Paravent》2008年  
 Exhibition view at Kunstmuseum St Gallen  
 Photo Stefan Rohner  
 Courtesy Kunstmuseum St Gallen

■快適なはずのベッドがおろし金のような刃を持ち、苦痛を与える凶器と化している。平凡な日常がいかにあやういかをあらわにした作品。

## 受賞理由および受賞にあたってのコメント

### ◎受賞理由

自らの複雑な境遇にもとづき、疎外された人間の苦しみや、政治的な抑圧などの様々な社会的矛盾を、身体的な感覚を呼び起こすような独自の方法で表現するなど、その創作活動はヒロシマ賞の趣旨に相当すると高く評価された。

### ◎受賞にあたってのコメント (受賞決定 (2015年10月) 時)

「ヒロシマの心」に象徴される全人類に対する世界平和という理念に関わることができ、大変光栄であるとともに身のすくむ思いです。

ヒロシマの経験は、人類の歴史において悲しくそして最悪の時を思い起こさせます。しかしながら、壊滅状態からの回復力と復興は、我々人類を鼓舞する希望の心を体現しています。

## 展覧会の見どころ

### ●日本初個展！注目作家の全貌を紹介

数々の国際美術展に参加し、2015年にはパリのボンピドゥー・センターで大規模な回顧展開催、翌年にはテート・モダン（イギリス）、キアズマ（フィンランド）へと巡回するなど、国際的な活躍を続けるモナ・ハトゥム。本展は、インスタレーション、立体・平面作品、映像作品ほか、彼女の幅広い創作活動の全貌を日本で初めて本格的に紹介するものです。

### ●本展のために制作された広島に捧げる新作を披露

第10回ヒロシマ賞受賞決定後、2015年11月下旬に広島を初めて訪れたモナ・ハトゥム。そこで被爆の実情に触れヒロシマに正面から向き合い生まれた新作5点を初披露します。

### ●ヒロシマ賞、約30年の歩みと重み

1989年に第1回ヒロシマ賞を三宅一生が受賞して以来、ヒロシマ賞は3年に一度、国内外の作家に贈られてきました。記念すべき第10回受賞記念展となる本展を広島の地でヒロシマ賞の意義とともに感じ考えていただくきっかけとなるでしょう。

## 略歴

### モナ・ハトゥム

1952年にパレスチナ人の両親のもと、レバノンの首都ベイルートに生まれる。ベイルート・ユニヴァーシティ・カレッジでグラフィック・デザインを学ぶが、イギリスに旅行中の1975年、レバノン内戦の勃発により帰国できなくなり、以来ロンドンに留まる。パイアム・ショー美術学校、スレイド美術学校に通い、ミニマリズムやコンセプチュアル・アートの影響を受けた作品を制作する。

1980年頃から自伝的なアプローチと身体的な感覚を通して表現したパフォーマンスや映像作品を制作。1980年代末からはミニマリストの美学を受け継いだインスタレーションによってジェンダーや政治的な課題など、普遍的な問題を扱ってきた。

#### <主な受賞歴>

1995年ターナー賞（イギリス）、2004年ロズヴィータ・ハフトマン賞（スイス）、2010年ケーテ・コルヴィッツ賞（ドイツ）、2011年ジョアン・ミロ賞（スペイン）

#### <主な個展>

1994年ボンピドゥー・センター（パリ）、1997年シカゴ現代美術館、1998年ニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート（ニューヨーク）、1999年カステロ・デ・リポリ（トリノ、イタリア）、2000年テート・ブリテン（ロンドン）、2004年ハンブルク・クンストハーレ（ドイツ）、2012年ARTER（イスタンブール）、2015年ボンピドゥー・センター（パリ）ほか

#### <主な国際美術展>

1991年ハバナ・ビエンナーレ、1995年リヨン・ビエンナーレ、イスタンブール・ビエンナーレ、ベネチア・ビエンナーレ、1998年サンパウロ・ビエンナーレ、2002年ドクメンタ、2005年ベネチア・ビエンナーレ、2006年シドニー・ビエンナーレ、2007年シャルジャ・ビエンナーレ、2012年リバプール・ビエンナーレ



モナ・ハトゥム  
Photo by Jim Rakete ©2006



《Cellules》2012-13年  
Photo Florian Kleinfenn  
Courtesy Galerie Chantal Crousel, Paris

■鳥かごのような金属製の入れ物の中に、赤いガラスが閉じ込められている。生々しさと美しさ、有機的と幾何学的な形の対比が印象的な作品。



（手前）《Undercurrent (red)》2008年  
（左奥）《Cellules》2012-13年  
Exhibition view at Centre Georges  
Pompidou, Paris  
Photo Florian Kleinfenn  
Courtesy Galerie Chantal Crousel, Paris

■赤いケーブルで編まれた四角い敷物から、植物のつるのようにケーブルが伸び、その先に電球が点灯している。表面には現れない電流によって、人間の奥底の感情をあらわにした作品。

## ヒロシマ賞について

### 主旨

美術の分野で人類の平和にもっとも貢献した作家の業績を顕彰することを通じて、広島市の芸術活動の高揚を図るとともに、「ヒロシマの心」を広く全世界にアピールし、人類の繁栄に寄与する。

合わせて、この賞を受賞した作家の展覧会を開催して芸術の発展に寄与し、ヒロシマ賞の意義を高める。

### 選考の基準と選定方法

#### <基準>

- ・美術の分野（平面、立体、映像、デザイン、建築等）で評価の高い活動を行っている個人あるいはグループ。
- ・ヒロシマの心にふさわしい制作活動を行っている個人あるいはグループ。
- ・美術館で単独の展覧会を開催する意義がある個人あるいはグループ。
- ・国籍、年齢は問わない。

#### <選定方法>

世界各地の美術館長、美術評論家等で構成する「推薦委員」と、過去の受賞者からなる「特別推薦委員」から推薦された作家等をとりまとめ、国内の美術館長、美術評論家等で構成する「選考委員会」で絞り込みを行う。

その結果をもとに、有識者、美術専門家等で構成する広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会で、受賞候補者を決定する。

◎広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会委員：逢坂恵理子（横浜美術館館長）、岡部あおみ（美術評論家、元武蔵野美術大学教授）、越智裕二郎（元広島県立美術館館長、西宮市大谷記念美術館館長）、櫻井友行（独立行政法人国際交流基金理事）、高階秀爾（大原美術館館長、公益財団法人西洋美術振興財団代表理事）、南條史生（森美術館館長）、深山英樹（広島商工会議所会頭、広島ガス（株）代表取締役会長）、福永治（広島市現代美術館館長）、部谷京子（映画美術監督）、松井一實（広島市長）、南昌伸（公立大学法人広島市立大学芸術学部学部長）

※ 2015年9月現在（五十音順・敬称略）

### 過去の受賞者

- 第1回（1989年決定） 三宅一生／デザイン
- 第2回（1992年決定） ロバート・ラウシェンバーグ／美術
- 第3回（1995年決定） レオン・ゴラブ&ナンシー・スペロ／美術
- 第4回（1998年決定） クシュイトフ・ウディチコ／美術
- 第5回（2001年決定） ダニエル・リベスキンド／建築
- 第6回（2004年決定） シリン・ネシャット／美術
- 第7回（2007年決定） 蔡國強／美術
- 第8回（2010年決定） オノ・ヨーコ／美術
- 第9回（2013年決定） ドリス・サルセド／美術



第4回ヒロシマ賞受賞記念  
クシュイトフ・ウディチコ展  
1999年  
関連事業「パブリック・  
プロジェクション、ヒロシマ」より



第7回ヒロシマ賞受賞記念 蔡國強展  
2008年  
《無人の花園》



第8回ヒロシマ賞受賞記念 オノ・ヨーコ展  
2011年  
《とびら》《ねがい》



第9回ヒロシマ賞受賞記念 ドリス・サルセド展  
1990年  
《プレガリア・ムーダ》